



## 第4会場

■司 会／大草 秀幸(佐賀県) 佐賀県立女性センター・佐賀県立生涯学習センター館長  
柴田 俊彦(山口県) 山口県プランナー養成セミナー卒業生

### 1 子どもの生活リズムを向上させるための実践報告「アンビシャスふくおか家庭教育宣言」

井上 幸繁(福岡県田川市) 田川市立田川中学校 PTA 会長

福岡県 PTA 連合会の「新家庭教育宣言」事業の一環として校区の総合的取り組みを目指して「学校応援団」、「学習応援団」、「子どもシンポジューム」など学校と地域と家庭を結ぶ取り組みを進めてきた。共有した認識は学力向上の前提に基本的生活習慣の確立と学習規律の定着である。その結果、具体的な取り組みとして(1)小中連携したあいさつ運動、(2)生活習慣の基本で継続して取り組め、成果の見えやすい課題の選択、(3)成果と課題について学級や家庭に情報を発信の3点を合意した。さまざまな領域で子どもの変容効果が見え始めたことが一番の成果である。

### 2 子どもの活動、大人の育成

—3年間の米子市子ども地域活動支援事業を経て—

ト藏 久子、實近 孝子(鳥取県米子市) 米子市子ども地域活動支援事業実行委員会コーディネーター

米子市全域、総数 29 力所において3年間実施した「地域子ども教室」事業の総括報告である。「受託者」は官民協働の実行委員会方式をとり、活動の調整は「市民コーディネーター」が行った。活動の拠点を公民館とし、地区ごとの実行委員会も結成されたが、活動の内容・方法も多種多様で、市民コーディネーターは本事業の趣旨説明や調整に困難を極めた。しかし、3年を経て、複数の地区が自主的な報告書を作成し、19年度以降の独自活動につなげる等、子どもの活動に取り組む大人たちの「市民力」の向上が最大の成果と捉えている。

### 3 子育て支援の「子縁」が育む地域のネットワーク

—植木町菱形小学校の手作り「通学合宿」—

山下 耕一(熊本県植木町) 菱形小学校 PTA 会長

子どもの「居場所」事業の活動に当たって、通学合宿実行委員会を結成。学校と公民館を活動の拠点としたため、学社連携が進んだだけではなく、PTA、学校教職員、地域住民のネットワークが拡大・進化し、通学合宿を通して、子どもの体験活動を支えるとともに個人及び各種団体にまたがった地域の世代間交流が充実してきている。